

編集後記

1992年に大学院が開設されてから、この3月の修了者を合わせると40人近い修了者数となっただけでなく、教育・研究機関に所属している者も極めて多いことから、研究活動を支援することの必要性が高くなっていった。

第1号をいつ発行するのかは、原稿の集まり次第ということで議論したが、とりあえず募集に踏み切ったところ、18人もの投稿申し込みがあり、最終的に原稿が集まったものに編集委員会でコメントをつけて投稿者に一部修正してもらい、今回の5本の論文を掲載することとなった。

吉野論文は97年度の修士論文をベースにしたものである。和泉・大坊論文は、制限枚数の2倍の大作となっていたため、止むなく2回に分割掲載となった。中村論文（96年修了）は、修士論文の内容を一部含んでいるが、さらに理論的な考察を深めたものとなっている。横山論文（95年修了）は、最近の研究をまとめたものであり、小泉論文（96年修了）は研究会の活動を紹介したものとなっている。

この紀要は、修士論文を書き上げた段階で投稿先を求める院生・修了者に執筆機会を提供するだけでなく、1年目の院生である和泉君のように研究意欲のある院生に広く開かれている。今後は、さらに投稿者が増加するものと思われる。

第2号は、改めて発行時期を検討して練り上げる話題も出されているので、関係者には今から準備を始めて投稿して頂くことを期待している。

最後に、大学入学試験、修士論文の審査等、多忙な時期にコメントして頂いた関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

（研究科委員 杉岡直人）